

# リサイクル可能な 複合強化プラスチック製型枠

環境配慮型樹脂型枠

# カタパネル®

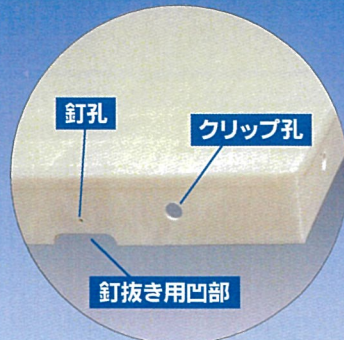
省資源・省エネルギー・環境負荷物質の低減  
「発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再資源化(Recycle)」

打設状況がわかる  
半透明仕上げ

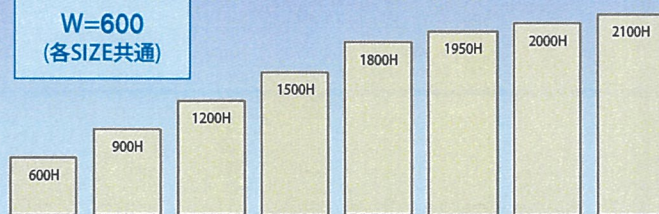
連結に便利な  
クリップ孔付き

釘抜きしやすい  
釘抜き用凹部

仮止めに便利な  
釘孔付き(長・短辺)



W=600  
(各SIZE共通)

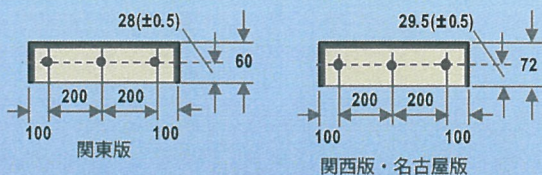


	600H	900H	1200H	1500H	1800H	1950H	2000H	2100H
関東版	●	●	●	●	●		●	●
関西版	●	●	●	●	●	●		●
名古屋版		●	●	●	●			●
光沢版(関東版)	●	●	●	●	●			●
光沢版(関西版)		●	●	●	●			

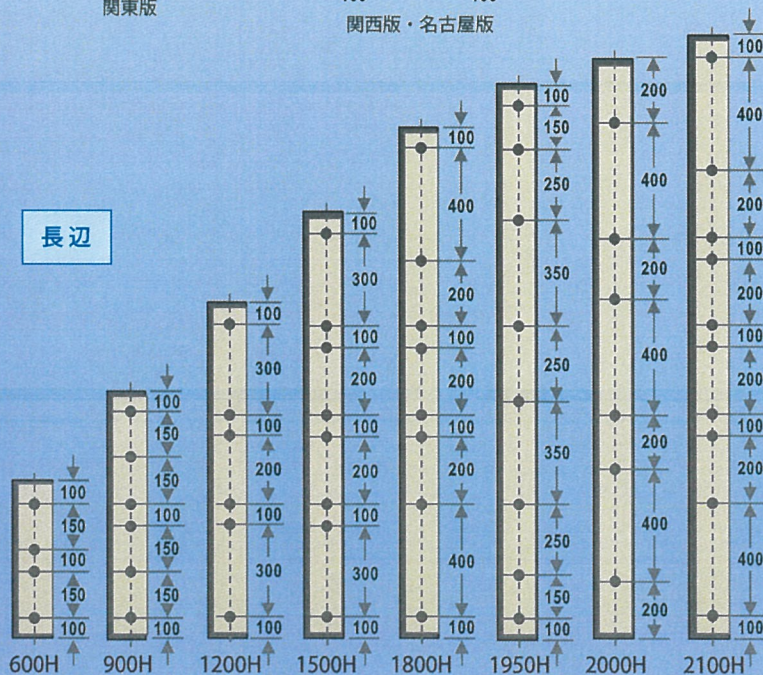
## カタパネル クリップ孔位置:(A) (単位:mm)

短辺

※クリップ孔径は長短辺共通φ14mm



長辺



## オプション部品

●カタパネル同士、またカタパネルと補助型枠との連結に便利な専用金具を品揃えております。

ワンタッチで連結簡単  
カタパネル用Uクリップ



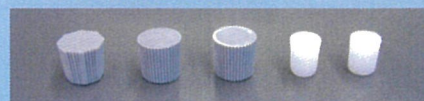
(入数/100ヶ)

合板との取り合いに便利  
栈木連結用クランプ

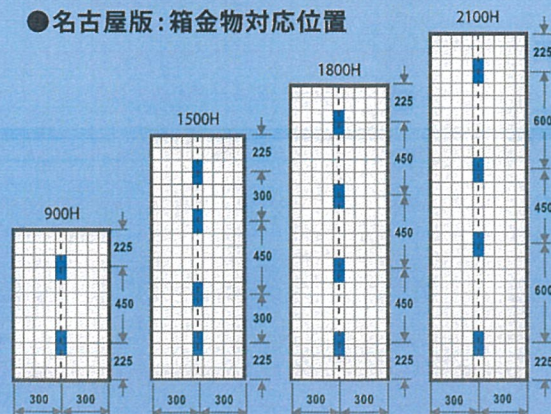


(入数/50ヶ)

●セバの孔の補修は、市販のPP製ブラ栓を使用して行なうことが出来ます。



●名古屋版: 箱金物対応位置





# 「カタパネル」の自己完結型リサイクル



使用済みカタパネルは  
当社工場にてリサイクルしています。

出荷

当社工場

再度カタパネルを生産



洗浄・粉碎・再原料化

納品（指定場所）

建設現場

使用 → 転用 → 償却

※リサイクルの際は、桟木・金具・釘などを除去し、  
付着したコンクリートは必ず落として下さい。

リサイクルが可能

産業廃棄物の削減が可能

・長期使用により強度が低下したり、切断・損傷をして実用に耐えられなくなった「カタパネル」は  
分別・回収・粉碎により、再度「カタパネル」の原料として完全リサイクル出来ますので、  
合板型枠の代替として使用する事により、産業廃棄物の削減に貢献します。

## ■樹脂型枠「カタパネル」に関する《短所》

- 樹脂型枠「カタパネル」は、建て込み・解体時に釘や金物がついたままの状態での、引っ張りやパール等での、こじりによって破損することが多く見受けられます。
- 樹脂型枠「カタパネル」は、プラスチック製品の特性でもありますが、外気温による伸縮性があります。「カタパネル」の場合、強化樹脂製で大幅に改善されましたが、このことを考慮し、特に600mm幅方向に±1mm程度の伸縮を前提に、関西版・名古屋版：598.5～599.0mm、関東版：599.0～599.5mmで仕上げ、製造しています。
- 樹脂型枠「カタパネル」の場合、面板側に向かって長凸凸反り（むくり）があります（コンクリート打設時の側圧で戻り、補修には至らない程度です）。フォームタイ等の緊結金物による締め付け過ぎにご注意ください。
- 樹脂型枠「カタパネル」は定尺規格品である為、施工時の割付検討・補助パネル製作を勘案する必要があります。
- 樹脂型枠「カタパネル」はプラスチック製（石油化学製品）の為、火気には十分注意してください（鉄筋・鉄骨溶接時に高温の溶接材塊が樹脂型枠のリップ上などに溜まり、火災が発生したことがあります）。
- 樹脂型枠「カタパネル」はプラスチック製の為、油分や水分の吸収が少なく、その為に剥離剤塗布や雨に濡れると滑りやすくなるので、施工・運搬時には十分な注意が必要です。
- 樹脂型枠「カタパネル」使用時は、毎回ケレン後に剥離剤の塗布をお薦めしています。プラスチック製の為、剥離性が良い反面、数回の転用後に面板に薄ノロが付き始め、やがて層になりこびり付きます。転用性とメンテナンス手間を考慮すると、導入初期段階からの剥離剤の頻繁な塗布が効果的です。また、使用現場での経験や剥離剤メーカーからの情報により、水溶性の剥離剤が効果的であると考えられています。（※適切なケレンがなされず、ノロが付いたままの状態では施工すると打ち上がり躯体表面が荒れた状態になります。）
- 樹脂型枠「カタパネル」は転用を重ねると、現場での使用状況やコンクリートによって度合いは違いますが、導入時に比べ徐々に面板が荒れてきます。そのことを考慮したうえでの施工現場の選定が必要です。

## ■樹脂型枠「カタパネル」に関する《長所》

- 樹脂型枠「カタパネル」はプラスチック製の為、転用を重ねても水分の吸収が少なく、ほとんど重量の増加はありません。
- 樹脂型枠「カタパネル」は、パネル状になっており、合板のようなパネルへの加工手間が軽減されます。また、合板パネル型枠に比べ、軽量で型枠材の荷揚げ作業の負担が軽減されます。
- 樹脂型枠「カタパネル」の素材特性の一つとして転用回数が多く、「カタパネル」の場合使い方次第で、50回の転用が可能であるとされています。また、1,200時間（一般的には約2～3年相当）の耐候試験に耐えています。
- 樹脂型枠「カタパネル」での施工後の打ち上がり躯体表面は、従来版の場合（光沢版を除く）塗装合板のような光沢・ツヤはありませんが、生合板に比べ平滑な打ち上がりになります。
- 樹脂型枠「カタパネル」は半透明製品で、コンクリート打設前の現場では明るく、打設時にはコンクリートの流入状況を確認できます。
- 樹脂型枠「カタパネル」はガラス繊維による強化樹脂ですが、ガラス長繊維のFRP製とは異なり、長期使用時のチクチク感を、その製法により大きく抑制しています。このことから切断が可能で面釘などの小さな釘も効き、また、プラスチックの欠点である伸縮性とたわみを大幅に抑えることができました。
- 樹脂型枠「カタパネル」の施工時の連結は、専用クリップで行い、面づらの微調整が容易であるとの評判をいただいています。
- 樹脂型枠「カタパネル」は、製造メーカーが自社でリサイクルを実施しています。使用後は、購入窓口へお問い合わせください。